

# 宿場町の建物

加賀藩は、<sup>けいちょう</sup>慶長二十年(1615)、大坂夏の陣の軍用荷物を優先して輸送することを目的に整備しました。交通の要地にある宿場町では、荷物や客を送るための<sup>じんば</sup>人馬や宿を提供しました。本町地区は、北国街道沿いに宿場町として整備され、周辺地域の商業地区としても栄えました。



宿場町のようす

《東海道五十三次 藤枝 <sup>じんばつぎだて</sup>人馬継立》

この図は東海道の<sup>ふじえだじゆく</sup>藤枝宿（現静岡県）で、人馬を提供する様子が描かれています。

野々市は、<sup>かんぶん</sup>寛文六年（1666）に常備する馬の数が定められ、87頭が備えられました。

野々市市域はほぼ全域に水田が広がる農村地帯でした。農家がひとかたまりになっている農村に対し、宿場町であった本町地区は街道に面して農家や町家が立ち並んでいます。

農家と町家では家のつくりも異なります。では、どのような違いや特徴があるのでしょうか。この企画展では、本町地区の建物に焦点をあて、現在に残る宿場町の面影を探ります。



野々市市域の昭和二十二年（1947）当時黒い部分が集落です。農村が点在しているのに対し、本町通りは道に沿って家が並んでいます。



現在の本町通り